

研究課題		視覚/映像社会学とビジュアル・リサーチ・メソッドに関する研究 (12)
報告の概要	研究目的 および 研究概要	<p>近年、我が国でも Visual Sociology への関心が高まり、研究成果も蓄積されるようになってきた。しかしながら、Visual Sociology を「映像社会学」と表現する研究者と「視覚社会学」と表現する研究者との間には、大きな溝が横たわっている。大雑把に言えば、前者は映像／画像データ（ないしメディア）を用いた“方法としての「映像」社会学”が、後者は「見る／見える」営みや経験そのものをテーマ化する“対象としての「視覚」社会学”が、それぞれ含意されている。本研究は、両者の溝を埋め（私は「ビジュアル社会学」と呼称する）、我が国における「実質的な Visual Sociology 事始め」を宣言して、研究を継続し成果を積み上げるものである。</p> <p>2017 年度までの成果をリレーして、12 年目の研究として実施した。なお、2019 年 3 月末、北海道の中川町において、ビジュアル調査を実施する。次年度中に映像ドキュメンタリー作品を制作し、公表する予定である。</p>
	研究の 結果	<p>私は、1994 年度より研究室で学生と共に“写真で語る：「東京」の社会学”と題するプロジェクトに取り組んでおり、その中から「集合的写真観察法」と呼ぶ新しいビジュアル調査法を開発し実践を積み重ねている。プロジェクトの成果に関しては、学内での展示発表やウェブでの公開の他に、学会発表・講演や論文なども既に多数発表している。こうした蓄積を土台にして、日本より 30 年程先に進んでいる欧米の Visual Sociology Movement の成果をレビューして吸収しつつ、当研究室のプロジェクトの成果をそうした研究史の中に位置づけて、共通性と特異性を明確にし、独自の「ビジュアル社会学」の構築を進めている。</p> <p>本年度は、上記プロジェクトの成果として、朝日新聞社とのジョイント展を、2018 年 11 月 13 日(火)～18 日(日)に文理学部百周年記念館で展示発表すると共に、2019 年 2 月にウェブサイトで公開した。</p>
	研究の 考察 ・ 反省	<p>ビジュアル社会学ないしビジュアル調査法に関する研究成果は着実に蓄積され、学部及び大学院での社会学及び社会調査教育の場面でも定着するようになると同時に、学会での認知度と評価が格段に上がっている。関連する出版物も多く見られるようになってきた。</p> <p>現在、本プロジェクトとも関連性を有する、私が研究代表者を務めビジュアル調査も実施した科研プロジェクト「交通インパクトの社会的効果に関する研究—量と質とビジュアルの混合研究法—」（2014～17 年度）の成果を取りまとめて出版に向けて作業を進めているが、本年度中には出版まで至らなかったため、次年度の課題としたい。</p>
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所	<p>※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。</p> <p>ビジュアル調査の方法を詳細に記述した（本プロジェクトについても紹介している）共編著『新・社会調査へのアプローチ』（ミネルヴァ書房、2013 年 4 月刊）の第 7 刷を 2019 年 1 月に刊行することができた。</p>	
研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	<p>『日本大学文理学部社会学科後藤範章研究室 2018 年度成果報告書（後藤ゼミブックレット 2018）』（2019 年 3 月刊）</p>	